

昭和30年 (1955)
7: 日本住宅公団設立

昭和31年 (1956)
4: 賃貸住宅第1号 金岡団地 入居
5: 分譲住宅第1号 稲毛団地 入居
8: 新潟市火災復興の店舗付特定分譲住宅竣工

昭和32年 (1957)
3: 郊外の団地開発 (光ヶ丘団地) 入居
4: 大規模団地 (多摩平団地) 着手
8: ステンレス流し台を採用 台所の革命といわれた
11: 初の市街地住宅 (磯子市街地住宅) 入居

昭和33年 (1958)
2: 公団初のIDK 武蔵野緑町団地 入居始まる
晴海高層アパート (高層化・工業化)

昭和34年 (1959)
◎ スチールサッシ採用
2: 相模原地区で初の工業用地分譲開始
4: 大規模団地・ひばりが丘団地入居
6: ティルトアップ工法テラスハウス (多摩平団地) 入居

昭和35年 (1960)
◎ 公共住宅規格部品制度 (KJ) 始まる
4: 郊外の大規模宅地 (常盤平団地) 入居始まる
4: 団地電話第1号開通 (萩窪団地)
9: 皇太子殿下同妃殿下 (当時) ひばりが丘・武蔵野緑町団地をご見学

昭和36年 (1961)
5: 池下市街地住宅 (地下鉄直結市街地住宅) 入居

昭和37年 (1962)
3: 公団住宅で初の火災実験 (赤羽台団地)
6: 賃貸住宅の募集に郵送方式を採用 (東京・大阪)
12: 草加松原団地 (5,926戸の大規模団地) 入居始まる

昭和38年 (1963)
4: 宅地債券制度を創設
6: 北青山三丁目市街地住宅入居 (オリンピックに向けた首都改造)
11: 全国一律の住戸標準設計が始まる (全国統一標準設計63型)

昭和39年 (1964)
8: 千里ニュータウン (津雲台団地) 入居始まる
8: 東京オリンピック外国報道陣宿舎として「外苑団地」提供

昭和40年 (1965)
6: 木製からホーロー浴槽・バランス (BF) 釜採用
12: 多摩ニュータウン 新住宅市街地開発事業都市計画決定
12: 泉北新住宅市街地開発事業の都市計画決定

昭和41年 (1966)
6: 第1次 空家住宅家賃改定実施

昭和42年 (1967)
8: 面開発市街地住宅第1号 (森之宮団地) 入居始まる
9: 内装材のプレカット工法採用 (金町駅前団地)

昭和43年 (1968)
4: 全国統一標準設計67型 (団地サイズの解消)
5: 高蔵寺ニュータウン (藤山台) 入居始まる
久留米地区で公団初の歩行者専用道路を導入

昭和44年 (1969)
1: 筑波研究学園都市の開発事業着手
6: 多摩ニュータウン公団施行地域起工式
8: 大島四丁目団地で面開発団地初の保育園開園
11: 百草団地 (歩行者専用道路を骨格とした郊外の大規模団地) 入居始まる

昭和45年 (1970)
1: 公団住宅50万戸を突破



12: 金剛団地 (大阪支所最大の団地5,002戸) 入居始まる

昭和46年 (1971)
1: 希望ヶ丘団地 (8階建壁式構造) 着工
3: 多摩ニュータウン (諏訪・永山) 入居始まる
8: 網入りガラス付エレベーターの試作 (大島四丁目団地)

昭和47年 (1972)
1: 高島平団地 (マンモス団地 10,170戸) 入居始まる
1: 札幌オリンピック開幕 選手村として「五輪団地」提供

昭和48年 (1973)
12: 公団初の超高層20階建住宅第1号 (兵庫駅前市街地住宅) 入居

昭和49年 (1974)
3: 高蔵寺ニュータウン中央台団地 (老人家族向住宅) 募集
7: 新豊里市街地住宅 (老人ベア住宅) 募集
8: 地域振興整備公団設立
8: 港北ニュータウン事業着手

昭和50年 (1975)
9: 宅地開発公団設立

昭和51年 (1976)
◎ ユニツトバスの導入
3: 森之宮第二団地にごみ空気輸送・地域暖房給湯設備完成
11: テラスハウスの増改築第1号 (東鳩ヶ谷団地) 完成

昭和52年 (1977)
◎ 標準設計の廃止
1: 長岡ニュータウン (地域公団) 着手
10: 竜ヶ崎ニュータウン事業着手 (宅地開発公団)

昭和53年 (1978)
3: 千葉ニュータウン開発に参画 (宅地開発公団)

昭和54年 (1979)
3: いわきニュータウン (地域公団) 着手
3: 千葉ニュータウンの足、北総開発鉄道 (北初富～小室間) 開通
4: 大川端地区特定住宅市街地総合整備事業に着手
10: 多摩ニュータウン初の宅地分譲、平均倍率155倍
12: 立花一丁目地区 (初の市街地再開発事業) 着工
12: 初のグループ分譲住宅「コーポラティブハウス城山」譲渡契約締結

昭和55年 (1980)
◎ 公団住宅100万戸突破
3: 厚木ニューシティ森の里 (初の誘致施設用地) 分譲開始
4: 多摩センター第1期施設オープン (駅前広場、バルテノン大通り、丘の上プラザ)

昭和56年 (1981)
1: 雨水地下浸透工法完成 (昭島つつじが丘ハイツ)
10: 住宅・都市整備公団発足
10: 海の中道海浜公園オープン

昭和57年 (1982)
5: 高蔵寺ニュータウン竣工

昭和58年 (1983)
2: 太陽熱利用給湯システム導入 (多摩ニュータウンエステート鶴牧)
4: 葛西クリーンタウン (全電化住宅第1号) 入居
6: つくばセンタービルオープン
8: 光ファイバーによる団地有線情報システム導入 (光が丘パークタウン)
8: 既存賃貸住宅団地において総合的団地環境整備事業を開始
8: 港北ニュータウン分譲住宅の入居始まる
11: 公団初の特定再開発事業 (土地区画整理) の事業認可 (みなとみらい21中央地区)



昭和59年 (1984)
3: 千葉ニュータウンで公団鉄道開業 (小室駅～千葉ニュータウン中央駅)
4: 初の斜行エレベーター設置 (花山東)

昭和60年 (1985)
3: つくば科学万博公団展示館「まちとすまい館」オープン
9: 港北ニュータウンで初の民間住宅事業者向け宅地分譲実施・民間活力導入第1号
10: 神戸ハーバーランド整備事業着工
◎ 中層賃貸住宅増築第1号発注 (小平団地)

昭和61年 (1986)
5: 初の公団賃貸住宅建替事業に着手 (小杉御殿・臨港第二団地)
6: 初のプラスαルーム (スクウェア玉川上水) 募集

昭和62年 (1987)
◎ シルバーハウジング・プロジェクト (高齢者向け住宅) 検討始まる
1: 初のプラスワン分譲住宅 (多摩ニュータウンプロムナード多摩中央) 募集
10: 国営木曾三川公園オープン

昭和63年 (1988)
1: リバーシティ21 (大川端地区・ウォーターフロント開発) 募集始まる
5: 初の建替後賃貸住宅の入居 (サンラフレ朝潮橋)
9: 関西文化学術研究都市 (相楽地区) まちびらき
9: 既存賃貸住宅ライフアップ作戦 台所設備の改良
11: 団地情報通信サービスシステム採用 (浦安マリナイースト21)

平成元年 (1989)
10: 八王子ニュータウン (八王子みなみ野シティ) 着工 地形を生かした環境と共生するまちづくり
11: 隅田川ウォーターフロント開発 (リバーピア吾妻橋ライフタワー入居)

平成2年 (1990)
3: 外国人建築家による設計第1号 (横浜ポートサイド・アルテ横浜) 入居
4: エステート千歳希望ヶ丘 (シルバーハウジング住宅) 入居

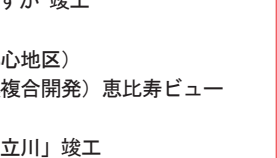
平成3年 (1991)
◎ バリアフリー設計が標準仕様になる
9: 西宮名塩ニュータウンに 日本一早い斜行エレベーター運行開始
10: 都市開発事業実施地区累計3万ha突破

平成4年 (1992)
◎ 公営賃貸住宅総合再生事業 (ソーシャルミックス)
8: 神戸ハーバーランドまちびらき
10: 那覇新都心 (地域公団) 事業着手
11: 沖縄首里城公園開園

平成5年 (1993)
3: 常磐新線沿線公団施行事業として 流山新市街地地区決定 (公団第1号)
10: 特定再開発事業第1号 ベイスクエアよこすか 竣工

平成6年 (1994)
1: 九州初の特定再開発事業着手 (香椎副都心地区)
9: 恵比寿ガーデンプレイス (都心の大規模複合開発) 恵比寿ビュウタワー入居
10: 立川基地跡地関連再開発事業「ファール立川」竣工

平成7年 (1995)
1: 阪神・淡路大震災



3: 環境共生型団地 (多摩ニュータウン長峰社の1～5番街) 入居始まる
4: 公団鉄道千葉ニュータウン印西牧の原駅開業
4: 震災復興事業本部発足
8: シニア住宅 (港北ニュータウンプロムナード仲町台ボナージュ横浜) 入居開始
8: 初のデュオフロア住宅 (天王洲ビュウタワー) 募集

平成8年 (1996)
1: 震災復興住宅 キャナルタウンエスト入居始まる
3: ユーメイク住宅 (千葉ニュータウンアバンドーネ原五番街) 入居
6: 震災復興第1号の芦屋中央地区 区画整理事業認可
10: 北九州学術・研究都市で事業着手

平成9年 (1997)
4: 同潤会代官山アパートを公団建築技術研究所に移築・復元
6: 常磐新線沿線開発事業に着手
10: 仙台長町副都心地区で東北初の特定再開発事業着手

平成10年 (1998)
4: 震災復興事業HAT神戸まちびらき
6: 政府の総合経済対策を受け、土地有効利用事業に着手
7: 横浜みなとみらい21中央地区「クイーンズスクエア横浜」竣工

平成11年 (1999)
10: 都市基盤整備公団発足
10: リニューアル住宅・高優賃貸住宅募集

平成12年 (2000)
3: 千葉ニュータウン「いには野」地区まちびらき
5: さいたま新都心まちびらき
7: 千葉ニュータウン公団鉄道全面開通 (印西牧の原駅～印旛日本医大駅開業)

平成13年 (2001)
1: 「スケルトン賃貸住宅制度」による初の民間事業者決定 (アクティ汐留)
4: 晴海アイランドトリトンスクエア (晴海一丁目東再開発事業) まちびらき
4: ストック再生・活用計画を策定
11: 屋上ピオトープ施工 (グリーンプラザひばりが丘南)
11: 中層階段室型エレベーターを試行設置 (福生団地)

平成14年 (2002)
3: 初のペット共生住宅 (潮見駅前プラザ一番街) 入居
3: 初のKSI住宅・ポストnLDK (アクティ三軒茶屋) 入居始まる
5: インターネットでの入居申込受付を順次開始
6: 初のSOHO対応住宅 (シティコート目黒) 入居始まる
11: 国営沖縄記念公園 (美ら海水族館) オープン
12: 「新・郊外居住」宣言発表

平成15年 (2003)
7: デザイナーズ賃貸住宅 (東雲キャナルコートCODAN) 入居始まる
12: 川崎駅西口「ミューザ川崎」竣工

平成16年 (2004)
4: 国際文化公園都市「彩都」まちびらき
4: 蘇我副都心 (蘇我特定地区) まちびらき
7: 独立行政法人都市再生機構 設立
7: 都市基盤整備公団鉄道 譲渡
9: コーディネート業務を受託した「川口と木元町」地区基盤整備着手

平成17年 (2005)
8: つくばエクスプレス開通・沿線タウン まちびらき

